



3.15 卒業証書授与式

1年間ありがとうございました

校長 尾後貫 智

3月15日、素晴らしい春の息吹を感じるこのよき日に小学部第39回、中学部第38回卒業証書授与式が挙行されました。小学部21名、中学部16名が、思い出いっぱいのアムステルダム日本人学校を巣立っていきました。式には、多くの保護者の皆様方のご列席をいただき、ありがとうございました。卒業生一人一人の今後の活躍を期待します。これで本校を巣立った卒業生は、小学部は1059名、中学部が520名となりました。

今日は平成30年度の修了式と離任式でした。どの学年の子どもたちも、一年間それぞれのめあてに向かって本当によく頑張りました。おかげさまで充実した一年間を終えることができたと思います。

残念ながら、本日で小学部18名〈1年～5年〉、中学部9名〈1, 2年〉の友だちとお別れすることになりました。また、離任式では6名の帰国する先生方とお別れしました。新天地でそれぞれ元気に活躍することを期待します。

さて、明日からは子どもたちの待ちに待った春休みです。『一年の計は春休みにある』という気持ちで、新学年に向けて心の準備をする時期でもあります。

この一年間、保護者の皆様には本校の教育に深いご理解と厚いご協力いただきましたことに感謝申し上げます。

次年度も引き続きご支援賜りますよう、よろしくお願いいたします。

「君たちはどう生きるか」

英語や理科や算数なら、ぼくでも君に教えることができる。しかし、人間が集まってこの世の中をつくり、その中でひとりひとりが、それぞれ自分の一生をしょって生きていくということに、どれだけの意味があるのか、ということになると、ぼくはもう君に教えることができない。それは、君がだんだん大人になっていくにしたがって、いや、大人になってからも、まだまだ勉強して、自分で見つけていかなくてはならないことなのだ。

冷たい水の味がどんなものかということになる

〈卒業式の式辞から〉

と、もう君自身が水を飲んでみない限り、どうしたって君にわからせることはできない。だれがどんなふうに説明したところで、その本当の味は、飲んだことのある人でなければわかりっこないだろう。このように自分自身で経験しないと本当の意味でわからないということが人生にはたくさんある。君自身が生きてみて、そこで感じた様々な思いをもとにして、はじめて、そういうえらい人の言葉の真実も理解することができるのだ。それは算数や理科を学ぶように、ただ本を読んで、それだけで知ると

いうわけには、けっしてないかい。

だから、まず肝心なことは、いつでも自分が本当に感じたことや、真実、心を動かされたことから出発して、その意味を考えていくことだと思う。君が何かをしみじみと感じたり、心の底から思ったりしたことを、すこしごまかしてはいけない。そうして、どういう場合にどういうことについて、どんな感じを受けたか、それをよく考えてみるのだ。そうすると、君がある時、あるところで、ある感動を受けたという、くりかえすことのない、たった一度の経験の中に、そのときにだけとどまらない意味のあることがわかってくるはずだ。これは、言いかえると、常に自分の体験から出発して、正直に考えていけ、ということなんだが、このことは、本当に大切なことなんだよ。ここにごまかしがあったら、どんなにえらそうなことを考えたり、言ったりしてもみんなうそになってしまうんだ。

ぼくやお母さんは、君に立派な人間になってもらいたいと願っている。しかし、勉強ができて行儀もよく、先生から見ても、友だちから見ても、欠点のありようのない人になってもらいたい、などと考えているわけじゃあない。成績はいい方がいいに決まっているし、態度が悪いのは困ることだ。けれども、それだけが肝心なことじゃあない。その前に、もっともっと大事なことがある。

君が学校でこう教えられ、世間でもそれが立派なこととして通っているからといって、ただそれだけで、いわれた通りに行動し、教えられたとおりに生きていこうとするならば、いいか、それじゃあ、君はいつまでたっても、一人前の人間にはなれないんだ。肝心なことは、世間の目よりもなによりも、君自身がまず、人間の立派さがどこにあるか、それを君のたましいで知ることだ。そうして、心の底から、立派な人間になりたいという気持ちを起こすことだ。よいことをよいことだとし、悪いことを悪いことだとひとつひとつ判断していく時にも、また、君がよいと判断したことをやっていく時にも、いつでもきみの胸からわきでてくる、生き生きとした感情につらぬかれていなくてはいけない。

そうでないと、ぼくやお母さんが君に立派な人になってもらいたいと望み、君もそうなりたいと考えながら、君はただ「立派そうに見える人」になるばかりで、本当に「立派な人」にはなれないだろう。世間には、他人の目には立派に見えるように、見えるようにとふるまっている人が、ずい分いる。そういう人は、自分が人の目にどういうふううつるかということを一番気にするようになってしまつて、本当の自分、ありのままの自分がどんなものか

ということをついおろそかにしてしまうものだ。ぼくは君にはそんな人になってもらいたくないと思う。

だから、繰り返し言うけれど、君自身が心から感じたことや、しみじみと心を動かされたことを、くれぐれも大切にしなければいけない。

これは「君たちはどう生きるか」という題名の本の一節です。私が中学生の時に国語の教科書に載っていて、その内容に深く感銘を受けたものでした。八〇年前に書かれた本ですが、今でもたくさんの中高生に愛読されているものです。

みなさんも自分の心から湧き出でる真実の感情を素直に受け止めて、まっすぐ生きていって下さい。

次にみなさんは、宇宙飛行士になる試験にジグソーパズルがあるのを知っていますか。ジグソーパズルと言っても、それは普通のジグソーパズルではありません。絵柄の付いていない真っ白なピースをはめ込むというものだそうです。形だけをたよりにして取り組まなければいけません。しかも真っ白なので完成図もなくやる気も起きないし、何を作っているのかも分からないので喜びも湧かないそうです。

私たちの人生は、この真っ白なジグソーパズルを組み立てる試験のようなものと私は思っています。それは完成した姿がまだ見えないものだからです。ただ言えることはこれからみなさんの未来に起こる自分にとってよいことも、そうではないことも、その一つ一つのワンピースは、みなさんの人生を完成させるためにどうしても必要なワンピースになることは間違いありません。パズルが完成した時、つまり人生の後半になって、あの訳の分からなかったピースがどこでどう自分の成長に生かされてきたかがわかるのです。あの辛い経験や失敗した経験がここに生かされることになっていたんだなあ。あの失敗がなかったら、ここを埋めることができなかったんだなという具合に。

大事なことは、これから中学、高校でみなさんに起こるよいことも、そうでないことも、あなたの人生にとって必要不可欠なピースであることを自覚していくことです。またそれをしっかり受け止め、乗り越えて大きく成長してほしいと思います。そして、自分が新しい学校へ通い、学べる幸せをしっかりとくみしめてそれぞれの門をくぐって行ってください。(抜粋)